

# 創業55年 伝統的技術を守り、伝える 機械では実現出来ない 産業用コイルを製作

共進電業社



松田親明会長

同社では、創設者である松田島一郎氏の職人的な技術と経験を基に、長年大企業に在職した職人を退職後再雇用することにより、高度な知識と職人技術を持った人材を確保し、さらには、その知識と技術の伝承を行うことで、機械化が進む現代では実現できない職人技を駆使した技術を強みとしている。

同社の松田親明会長と松田幸明社長は、「巻線機、乾燥炉、真空含浸装置、油圧プレス等、大小コイル製作に関する設備一式を備えており、鉄道車両用各種コイルの絶縁加工、コイル製作において協業化、専門化が叫ばれている中、独自の完成品の開発、現有設備と職人技術を最大限適合した新製品開発を目指し、日々従業員一体となり、努力しています」と力強く話す。

共進電業社（横浜市保土ヶ谷区神戸町、松田親明会長、045・333・6861）は、現代表の父である松田島一郎氏が25年間勤めた大手電機メーカーを退職後、東洋電機製造が水車発電機第1号を製作する際に、その技術指導を行ったことから始まる。その後、友人や後輩数人とともに昭和32年1月、発電機用コイルの絶縁加工請負製作や、鉄道車両用コイルの絶縁加工・成型加工等を業とする同社を設立。

同年8月には、現在地に工場を建設し、従来からの車両用電動機の界磁や補極コイルモールド作業の操業を始める。現在も長年培ってきたコイル絶縁体加工技術を活かし、鉄道車両用・一般産業用電動機、発電機、変圧器等の各種コイル製作及び修理が主業となっている。



同社が製作した車両用コイル